

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、さぎの宮圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和5年10月25日（水）9時30分から11時30分まで
参加者	委員：11人　その他：1人（高齢者福祉課：2人、東区長寿保険課：2人、協働センター2人包括支援センターさぎの宮：2人、浜松市社協：6人）
場所	東区役所31・32会議室
内容	<p><b>【開会】</b> 会長より開会の挨拶</p> <p><b>【意見交換会】</b> ①「これまでの振り返り及び今後の進め方について」 さぎの宮圏域の協議体は長きにわたって、家事支援事業のを中心とした話し合いを進めていき、長上・笠井両地区で家事支援活動が開始されるようになった。引き続き、活動が継続できるような情報共有をできるように心掛けていきたい。また、今年度は、家事支援だけでなく、新たな地域のたすけあいを考えられるように、以下の取り組みをしていきたい。</p> <p>「事務局よりこれからの進め方について説明」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事支援の情報共有について 今年度は協議体会議の中で、毎回家事支援の情報共有を考えている。報告会のようにならないように、活動者の意見やその集約に協力してもらい「情報共有の場」を作っていきたいと思っている。</li> <li>・マップを見ながらの「地域のたすけあい」の意見交換について マップを使いながら地域資源の確認をしたことで、何も資源がない空白地域の発見があった。マップはあくまでも参考資料であるが、地域を見つめなおすきっかけを作れたと思っている。 協議体で出た話題を地域に落とし込み、新たな話し合いの場が作れるようにSCの立場でも動いていきたい。</li> </ul> <p>[長上]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の協議体会議ではマップを活用し、地域にある資源等を視覚化した。これをどのように各団体に共有していくかを考え、グーグルマップに落とし込み、QRコードを使用して見られることを伝えた。書き込む時は紙の方が便利だが、共有する時はデータの方が活用しやすい。</li> <li>・集まる場所としては、公会堂があがった。皆がいるところに行くには、移動手段が大事。居場所や買い物のための移動手段としての問題があがった。次回はマップにバス路線も落とし込んでいきたい。</li> </ul> <p>[笠井]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回作成したマップについて確認した。笠井協働センター周辺の地域住民については、催しがあればすぐに参加ができ、活動場所も多くある。一方で、常光町など南側の地域には、集いの場がなく、高齢者が孤立してしまっている。「協働センターの近くの人はいいわ、遠くて気軽に参加できない、不平等…」という声も聞かれる。</li> <li>・民生委員の活動においても、豊西地区は、笠井の中心地に比べ、格差があるこ</li> </ul>

とを感じている。認知症が重度の状態になって初めて包括に相談がくるケースもある。集まる場所がないことで孤立し、情報が不足しているため、認知症サポーター養成講座など既存のものを活用してけるとよいと感じた。また、1年に1回防災訓練をして、とにかく年寄りが出てきてほしいと声をかけたり、シニアクラブでは、引きこもりの方が出てこられるよう声をかけたり、地域で孤立しないよう意識しているという話があった。

## ②「家事支援の情報共有の内容について」

[長上]

- ・サロンや買い物のための、移動手段はどうしているか
- ・ボランティアが集まらない、協力員の募集はどうしているか
- ・自治会を超えた支援体制はどうしているか
- ・他と比べて利用料が妥当なのか
- ・依頼された現場の下見に行く際の方法、(コーディネーターで対応しているのか等)

[笠井]

- ・自治会に入っていない人のゴミ出し支援はどうしているか
- ・活動中の事故やケガについてどう対応しているか
- ・草取り後の廃棄、後片付けの問題。ゴミ出しでどこまで対応するか
- ・他地区の工夫していることを知りたい
- ・電気工事できる人、ブロック塀をなおす人を支援員として入れてほしいと要望があった

### 【令和5年度第3回協議体会議について】

開催日時：令和6年1月17日（水）9：30～ 31・32会議室

【閉会】

副会長より閉会の挨拶

今後の見通し等

長上・笠井地区の家事支援の情報交換については協議体会議以外で話し合いの場を設け、活動者同士が意見交換できる場を検討していく。